

株式会社アルファシステムズ

第41期報告書

2012年4月1日から2013年3月31日まで



ユビキタス社会実現に貢献する
アルファシステムズを
もっと知っていただくために



● 株主の皆様へ

さらなる株主価値の向上を目指し、 新たな成長戦略を推進してまいります。

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げますとともに、平素よりご支援ならびにご愛顧に対し、深く御礼申し上げます。

当社は、「和、信頼、技術」を社是とし、豊かな人間性と高い技術の融和を目指し、新しい情報通信ネットワーク技術への飽くなき挑戦と活用により様々な社会的課題を解決していくという基本方針のもと、事業を行っております。

第41期は、底堅い国内IT投資を背景に4年ぶりの増収を達成いたしました。利益については不採算案件の発生により営業利益、経常利益が前期を下回りましたが、IT市場は緩やかながらも着実に好転しつつあり、増収増益路線を回復するための手ごたえを感じられる年となりました。

情報サービス業界は現在、クラウドコンピューティングに代表されるソフトウェアのサービス化とグローバル競争の加速といった構造変化の中にあり、これらの変化への適切な対応が急務となっております。第42期は、経営体制の強化

を図り、新たに見直した成長戦略を着実に実行していくことで、持続的な成長と高い収益力を兼ね備えた企業へと成長してまいります。

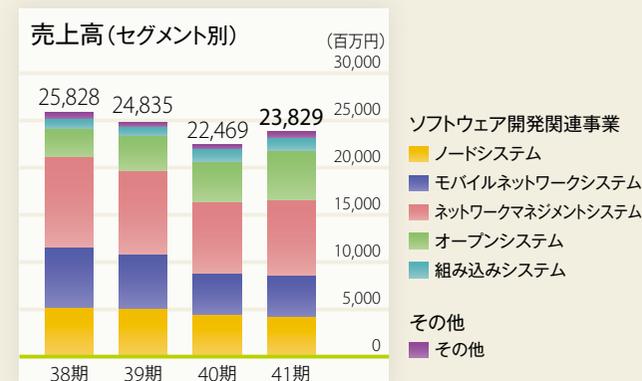
株主の皆様への利益還元につきましては、第41期の配当を1株当たり40円（中間20円、期末20円）とさせていただきます。今後も、安定的かつ継続的な配当による利益還元を維持するとともに、配当水準のさらなる向上に向け、収益力を高めてまいります。

株主の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2013年6月



決算ハイライト



当期の事業環境と業績

当事業年度におけるわが国の経済は、復興関連需要等から国内需要が底堅く推移したものの、海外経済が減速状態にあったことから、弱めの推移となりました。世界経済を巡る不確実性は引き続き大きいものの、後半には国内の各種経済対策効果等により景気は下げ止まり、緩やかな回復を期待できる状況となりました。

情報通信業界では、クラウドコンピューティングやSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を活用した様々なサービスが、スマートフォンやタブレット端末の隆盛とともに拡大を続け



ております。これにより通信事業者では、データトラフィック増加への対応やネットワークの付加価値創出に向けた設備投資が進められました。また、企業のIT投資マインドの改善により、事業継続の観点を重視したシステムの見直しや、効率的なITシステム基盤への更改等が積極的に進められております。一方、ソフトウェア開発事業における短納期化や低コスト化要求は強さを増しており、これら市場の変化にいかに対応していくかが課題となっております。

このような事業環境の中で、当社は、投資の拡大が見込めるモバイル網インフラ関連及びネットワークマネジメントシステム関連の受注

拡大に努めてまいりました。また、今後成長が見込めるオープンシステム分野へ積極的に展開し、業績の拡大を図ってまいりました。しかしながら、一部で不採算案件が発生したため、営業利益及び経常利益が前事業年度を下回りました。

以上の結果、売上高は23,829百万円(前期比6.1%増)、営業利益は1,738百万円(前期比11.0%減)、経常利益は1,836百万円(前期比10.1%減)、当期純利益は1,091百万円(前期比118.6%増)となりました。

事業概況

単位：百万円

ノードシステム 次世代ネットワーク (NGN) 関連及び構内交換機 (PBX) 関連の売り上げが減少いたしました。	4,203 前期比 4.7%減
モバイルネットワークシステム 携帯端末関連及び基地局関連の売り上げがともに前期並みとなりました。	4,314 前期比 0.4%増
ネットワークマネジメントシステム モバイル網インフラ関連の売り上げは前期並みでしたが、固定網インフラ関連の売り上げが増加いたしました。	7,926 前期比 5.4%増
オープンシステム 流通業向けシステム関連の売り上げは減少いたしました。製造業向けシステム関連及び金融システム関連の売り上げが増加いたしました。	5,306 前期比 22.6%増
組み込みシステム 車載システム等の制御システム関連の売り上げは増加いたしました。複合機関連の売り上げが減少いたしました。	1,305 前期比 3.1%減
その他 自社製品関連の売り上げが増加いたしました。	773 前期比 37.5%増

● 経営戦略

市場の波を掴み、増収増益路線への着実な回帰を目指します。

当社を取り巻く事業環境

通信市場は現在、大きな構造変化の渦中にあります。クラウドコンピューティングやスマートフォンの普及によりデータトラフィックが急増する中で、通信料金の定額制が普及、さらに通信事業者ではないIT企業がインターネット上で無料通話や動画配信サービスを展開するようになり、通信事業者各社は設備投資に見合う収入をいかに得るかに腐心しています。生き残りをかけ、通信事業者ではない新サービスや新事業を立ち上げたり、グローバル展開による事業拡大を図ったりと、新たな成長戦略を進めています。

一方、企業のIT投資は、国内景気の緩やかな回復に伴い、緩やかな増加が見込まれています。各種ビジネスシステムの開発案件は増加傾向にあり、この流れは今後も継続するものと予想しています。

このような事業環境の中で当社は、ソフトウェア開発事業の基盤強化と新たな事業展開への挑戦により、成長軌道への着実な回帰を果たしてまいります。

新成長戦略

オープンシステム
分野への
さらなるシフト

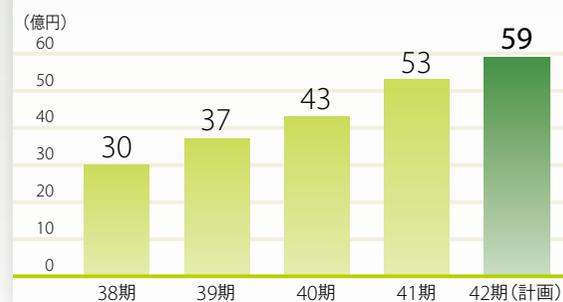
製造コスト構造
の改革

▶ 新成長戦略 1

オープンシステム分野へのさらなるシフト

通信事業者の成長戦略や企業のIT投資の回復を背景に、当社はオープンシステムの事業分野を拡大していますが、この戦略をさらに推し進め、主力であるソフトウェア開発事業の拡大を図ってまいります。経営資源をオープンシステム分野へ積極的にシフトし、製造、流通・サービス、金融、公共といった通信以外の様々な業種・業務分野のシステム開発へ展開し、通信分野に続く得意分野を確立してまいります。

オープンシステムの売上高



プロダクト・
サービスビジネス
の基盤強化

新たな
成長軌道へ

▶ 新成長戦略 2

製造コスト構造の改革

クラウドコンピューティングの普及は、IT資産を「所有するモノ」から「利用するモノ」へと変化させつつあります。またグローバル化の進展は、海外企業の参入やオフショア開発（賃金の安い海外での開発）を増加させ、その結果、ソフトウェア企業間の競争は激しさを増しています。当社は、ソフトウェア開発事業における製造コスト構造の改革に取り組み、オープンシステム分野における競争力の維持・向上を図ってまいります。

具体的には、開発プロセスや業務プロセスの見直しと改善、多様化する開発形態に対応するプロセスの確立、効率的な開発を実現する開発環境の整備等に取り組み、生産性の向上を図ってまいります。また、新しい分野への展開には大きなリスクが伴うことから、リスクマネジメントの強化を図ります。プロジェクトマネジメント力のさらなる向上、新規分野に対するリスクマネジメントの仕組みづくり、リスク監視の効率的運用に取り組んでまいります。

プロダクト・サービスビジネスの基盤強化

当社は、持続的な成長と収益力のさらなる向上に向け、主力のソフトウェア開発事業に加え、新たな収益源となるビジネスの創出に取り組んでおります。具体的には、自社開発のプロダクトやサービスを主軸とした販売やシステム構築等のビジネスを進めております。

ソフトウェア開発事業以外の売上高



第41期は、ソフトウェア開発

関連事業以外の売上高が前年同期比で37%以上の増加という順調な結果となりました。しかし、同時にビジネスとしての課題も明らかになりました。このため今期は、これらのビジネス基盤強化に注力することとし、既存プロダクトのブラッシュアップと収益モデルの確立、新プロダクト開発の加速化に取り組んでまいります。

分野	プロダクト
文教	PC教室ネットブートシステム「V-Boot」 授業支援ソフトウェア「V-Class」
マルチメディア・コンテンツ	DLNAミドルウェア「alpha Media Link SDK」 iOSアプリ「Media Link Player」
コンテンツ配信・コミュニケーション	エリア限定Wi-Fi配信 デジタルサイネージ向け配信 ヘルスケア情報配信

● アルファシステムズの製品ソリューション

Wi-Fi 《法人向け》エリア限定コンテンツ配信サービスを提供

デジタルコンテンツを収録した専用機材をコンセントに挿す。それだけで、手軽にその場所にWi-Fi環境を構築し、配信エリアを限定した電子図書館サービスやデジタルサイネージサービスを、当社は提供しています。

利用者はWi-Fiに接続可能なブラウザ機能を搭載したデバイス（スマートフォンやタブレット等）があれば、アクセスポイントにアクセスしてブラウザを起動するだけで、コンテンツを楽しめます。

サービスの展開イメージとしては、設置場所だけのエリア限定配信という特性を活かすことで、消費者が来店するきっかけ作り、集客支援、待機時間対策、顧客満足度向上のためのツールとして、ご活用いただけます。店頭、ロビー、待合室、喫茶店をはじめ、乗り物、公共施設、イベント会場等、様々な場所で活用できるため、これからの無線LAN連携事業の市場において、活用・導入が広がります。



導 入 事 例

電子図書館サービス

◎手塚治虫マンガ電子図書館サービス
飲食店・図書館への来店者や来館者に、手塚治虫のコミックや動画を配信



2012年東京国際ブックフェア
手塚治虫マンガ電子図書館サービスの
プレゼンテーション



デジタルサイネージ

◎乗り物向けサービス
汽船の乗客を対象に、観光情報を配信

◎商品紹介サービス
家電量販店で、タブレットを用いて、店員が来店者への商品説明に活用

サービスの 特徴

- 電源を入れるだけの簡単設置
- インターネット環境不要
- スマートフォン・タブレット向けサービス
- ブラウザで閲覧（アプリインストール不要）
- エリア限定配信

収録 コンテンツ イメージ

- コミック・動画・娯楽コンテンツ
- プロモーション広告コンテンツ
- e-learning コンテンツ
- 観光情報コンテンツ など

● トピックス

イベント

野村IR個人投資家フェア2012に出展



当社は、昨年12月14日(金)・15日(土)の2日間、東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)で開催された「野村IR個人投資家フェア2012」へ出展いたしました。

このイベントは、個人投資家を対象として、野村インベスター・リレーションズ(株)が主催(共催:野村証券(株))したもので、上場企業38社と、投信運用会社6社によるブース出展のほか、説明会会場における専門家の講演や、出展各社の企業説



明会が催されました。2日目が雨という天候にもかかわらず、延べ4,857名もの来場がありました。

この出展で当社は、約500名の個人投資家の方々と直接コミュニケーションを行い、当社を広く知っていただくとともに、貴重なご意見を多数お聞かせいただく機会を得ることができました。ご意見によると、株主還元で最も期待する点は「安定配当」が圧倒的に多く、株式購入時に重要視する点でも「成長性」「事業内容」に続いて「配当」が多くなっており、配当政策への関心の高さがうかがえます。当社では、株主に対する重要政策の一つとして、「安定的かつ継続的な配当による利益還元の維持と、業績、利益水準に応じた配当水準の向上」を基本方針としていますが、この重要性を裏付けるものであり、しっかりと受け止めてまいります。また、当社に対する「理解が深まった」あるいは「投資を検討してみたい」というご意見を

多数頂戴いたしました。来場前から当社を知っていただいていた方は全体の4分の1程度で、まだまだ知名度が低い状況を再認識いたしました。

現在の情報化社会は、急速に普及するスマートフォンやタブレット型情報端末を取り込み、ハイスピードな進歩を続けており、これを支える情報通信ネットワークの役割はますます重要性を増しております。

当社は、1972年の創業以来、これら情報通信ネットワークに関わるシステム開発を通じ、社会貢献を果たしてまいりましたが、これらのシステムは一般の方々が普段直接目にするものではないため、当社を知っていただく機会はほとんどないと思います。今後は、このような「当社を知っていただく活動」をより積極的に進めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、ますますのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

地域
社会Jリーグ 川崎フロンターレへの
スポンサー提供

当社は、神奈川県川崎市をホームタウンとするJリーグのプロサッカーチーム「川崎フロンターレ」を、スポンサーとして応援しております。当社の事業所が立ち並ぶ川崎市中原区には、同チームのホームグラウンドである等々力陸上競技場もあり、試合日には当社のサッカーファンも応援にかけつけております。



KAWASAKI FRONTALE OFFICIAL SPONSOR

アルファシステムズ

私達は川崎フロンターレを応援しています

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話：0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.alpha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

ご注意

- (1) 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社アルファシステムズ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号
電話 03-3486-5111(代表) FAX 03-5466-7755
<http://www.alpha.co.jp/>

